

## 被災農地等に オリーブ栽培を拡大中



石巻市では、東日本大震災によって被災した農地で、平成26年度からオリーブの試験栽培に取り組んでいる。

当初は、雄勝・牡鹿地区の2地区10aに30本の苗木の植え付けから始まり、現在は、北上及び河北地区を加えた4地区合わせて190aに515本を栽培中である。

河北地区では、平成28年4月に高さ1.5m程の苗木20本を植え、高さや枝ぶりに多少ばらつきはあるが、順調に生育して、平均高さ2m、幹の根元の直径は3cm程になった。9月下旬には、1cm程の光沢がある緑色で楕円形の実が、1本あたり20～30粒実っている。これまで4地区で定植して枯れた木は12本だけである。



今後は、北上川河口に位置する北上地区の集団移転跡地・農地等を有効利用し、来春約330aにおいて1,150本を目標に定植を進め、定植済みの350本と合わせ、採算ベースとされる1,500本の栽培を目指して、オリーブ栽培の更なる拡大を計画している。

将来は高品質のオリーブオイルやお菓子など、石巻の新しい特産品にしようと関係者は大いに意気込んでいる。